

大学における学びの充実に向けて

産業能率大学学長 おにき かずこ 鬼木 和子



4月1日より産業能率大学学長に就任いたしました鬼木和子です。1985年に本学入職以来、短大、大学で教鞭をとり、昨年度まで情報マネジメント学部長を務めました。もとより微力ではございますが、本学学生が価値ある充実の4年間を過ごせるよう尽力いたしたく存じます。保護者の皆様には後援会を通じて本学の教育活動、並びに学生の活動、諸行事に多大なるご支援を賜り心より感謝申し上げます。

さて、コロナ禍3年目の新年度におきましては、両学部とも昨年度以上に対面授業の比率を(約9割)高め、他方、オンラインにより教育効果が高まる科目を一部オンライン(ライブ型、或いはオンデマンド型)授業とし、順調なスタートを切っております。依然として楽観視できない状況下ですが、学生の安心安全を最優先しながら、それぞれのキャンパスの環境に応じて、ゼミ活動や学生の課外活動等の活性化を図るべく検討を進めております。特に入学時からコロナ禍の環境にあった2020年度入学生が3年生になりました。実りある豊かな大学生活が過ごせるよう教職協働にて環境を整えているところです。

今年度は1009名の新入生を迎えました。両学部生とも、ゼミ、英語、情報リテラシー等々、多くの必修科目を履修し、授業外学習、提出課題、小テストに追われながらも、新たな学びの拡張に面白さを見だし、学友や担当教員との語らいに楽しさを覚え、大学生活にも慣れてきた時期だと思えます。高校時代までの学びと異なる点も多く、戸惑いも多いかと思えますが、大学時代での学びの習慣が将来を創ることになりますので、本学では多様な学びの機会を提供し、自律した学習者の育成に力を入れています。まず、新入生の皆さんには、他者と学び合う豊かさをより実感できるよう、学友や教職員と共にじっくり学ぶ経験を積んでいただきます。そして、学びの振り返りを習慣化するために、学期初めに目標を定め、活動記録、及び事後の評価を記入する「目標ポートフォリオ」を活用します。この「目標ポートフォリオ」をアカデミックアドバイザーと共に面談等で確認することで、教員からの的確な助言を得ることができます。このような学びのサイクルを重ねることで、学生は徐々に自身にふさわしい学びのスタイルを身につけ、自律的学習者になるための一歩を踏み出すこととなります。私共もこのように成長し続ける学生たちの取り組みに支えられながら、新たな教育改革に臨む力を得ております。

お陰様で、ご報告が恒例になりますが、『大学ランキング2023 (AERAムック)』朝日新聞出版社(2022年4月15日)によりますと、高校からの評価ランキング(大学通信調べ:順位は739大学中)において、「小規模だが評価できる大学」(4位)、「面倒見が良い大学」(5位)、「入学後、生徒を伸ばしてくれる大学」(8位)、「就職に力を入れている大学」(6位)の高評価をいただきました。

本学は、今年創立97年目を迎えます。この4月に入学した新入生がちょうど4年生になる年に百周年を迎えることとなります。その間、マネジメント領域の「実学教育」を柱とする教育中心の大学として、「知識は実際に役に立ってこそ価値がある」という建学の精神を礎に教育改革を重ね、綿々と歴史を紡いでまいりました。今後も法人の基本理念でもある、規模の拡大を追求せず、社会人教育と学生教育を合わせ持つユニークな大学として日々教育改善に取り組んでまいります。

今年度は、その教育改善の一環として各学部で新たな科目を開設しました。経営学部の「マーケティング・イニシアティブⅠ」、情報マネジメント学部の「地域ブランド創造プロジェクト」です。詳しいご紹介は別の機会に譲るとして、両科目に共通する2つの特徴(①問題状況を捉え自ら課題提起をする、②一定期間の実施で完結するのではなく年次を越えて継続するプロジェクトである)から、日本の教育課題となっている主体性(agency)の育成に大きく寄与することが期待されましよう。

以上、本会報誌上にて後援会の皆様にご挨拶申し上げます機会を頂きましたことに感謝申し上げます、重ねて、今年度もご支援、ご協力を引き続きよろしくお願い致します。